

# 期待する新人群

(一) 私の推薦する若き世の人人々

(二) その推薦の理由と感想

＝答回きかは家諸＝

に眞に心強く思つてゐます。もとより今日以後の或る期間にその活躍が期待されるとは思ひません。その後の、若しかしらた数十年後になるでせうが、それは至難高遠の藝術創作ですからむしろ當然の事と言つて宜しい。ではその人達は何ういふ方々と問はれて、私はその一々を擧げるのに可なり躊躇します。私しの對談ならばつきり欣んで申しますが、印刷して公刊されるのと、過去の同じ場合で見聞きした経験から、殊に指された御當人へ内的にも外的にも悪い影響の加はる方が多いやうに思はれます。ですから、これ丈は何うぞお着しを願ひます。

## 木谷蓬吟

歌舞伎では、大人は御免蒙り、若手では

嵐 雛助 (智と熱の點から)  
坂東鶴之助 (大塚でスツキリした點から) この他になし。  
文樂では

竹本濱太夫 (緑の太い豪傑風)  
豊竹つばめ太夫 (緑の緻密なインテリ風)  
竹本七五三太夫 (奔放、野性的方面に伸したい)

## 太宰 施門

各方面に數名つつあり、斯界の爲

一、幸四郎の三人息子  
二、誰かがきつと天下をとる。

## 山本修二

## 新 關 良 三

近頃は見ることも聞くことも息つてゐますので、お尋ねの答はさしひかえたいと思ひます。すぐれた個人の出現も確かに大事ではあります。が、粒の揃つた一座、或ひはもつと全般的に、よい藝能者が多數に出て來る事が藝能界の水準を高めるために大切かとも思ひます

## 繁岡 鹽一

御問合せの裡、歌舞伎に於きましての市川海老蔵氏を期待いたして居ります。人柄もよし、何もかも私は好きな人です、あれで張りが出て來たらもういよゝ結構と存じます。

## 知 切 光 歳

一、能樂も文樂も、最も味の悪かつた戦時中以來、接して居ませんので快い印象が過去にばかりさかのぼりますので適當なお答へに苦しみます。歌舞伎とも同様ですが、たゞ芝翫と梅幸には特別の關心を有してをります。二、この人あたりが恐らく、女形といふ特殊なもの、最後をかざる狂ひ咲きのやうな氣がして：

## 秦 豊 吉

もつともつと若い方らが、昔の人のやうに縁の下力持の苦勞を重ねる決心がなければ、古典藝能の

達人は出ません。ところが昔の人だけの苦勞をしてゐると食へません。この矛盾を乗り越え辛棒した人が將來のえらくなる人です。私は臆聞でまだこれ丈の苦勞をしてゐる新人を知りません。

## 遠山 靜 雄

能樂、文樂については語る資格無之、邦樂界に就ては誠に淋しさを感ずるのみに御座候。歌舞伎にては松緑、梅幸が十分に期待出来るかと存候も海老蔵がごままで出て來る可右兩人とのせり合になることの可能性を興味深く感じ居り候。

## 守 隨 憲 治

一、尾上松緑 (歌舞伎) に期待すること、自己の藝に對する謙虛な態度のあること、將來の社會に對し眞剣な煩悶の持主であること、等によつて右の様に判断します

## 關 口 次 郎

一、尾上梅幸 (歌舞伎)  
二、よくその人柄と資質を知つてゐる故。誰しも想像出來るやうに常に菊五郎の薰陶を受け得るといふ條件を考へても。

## 楠 山 正 雄

一、中村芝翫  
二、お問合せの「將來の活躍を期待」し得る人といふでなしにこれならば菊五郎、幸四郎等の活躍歌

舞伎の新人を指名すべきだが、淋しく冷たいがどこかもつきりしたいるけとうれいで歌舞伎女方の正統派はやはりこの人。

竹越和夫

一、尾上松緑  
二、父幸四郎譲りの華風並に舞踊的才能に、音羽屋のもとに於ける修業は、鬼に金棒と云つた手強さを加算し、鬼に金棒と云つた手強さを加算してゐる。藝熟心で、勉強家で仲々の理知のひらめきがある。歌舞伎をどこまでも楽しくやつて行かうといふ決心も仲々謙虚な態度であるが、いゝ、立役の人として今後を期待して間違ひないと思ふ

本山 荻舟

竹本緘太夫に期待する。他に人がないからといはれたので、當人恐らく嬉しくないかも知れないけれど、これは當人に關係なき事實なれば致し方なし。筒のある美音、これが第一の強味、睡匠ゆりの藝に對する新しい解釋、これがどの程度に安定するか、將來の成敗に對する分岐點、但し新しい時代感覺は、師匠の時代とちがふだけに、これをいかに打開するかに興味を期待。端的にいへば「大きい太夫」になつてほしいの也。

利倉 幸一

一、中村芝翫 どんな時代が來ても、どんな境遇におかれても、歌舞伎に對する信念に動きがあらうとは思へない。今の若さでかういふ腰の据つた態度は他にあまり見られない。技術の點ででもいつ、彼者になると思ふがかういふしつかりした根據を有つ者が結局は大成するのだと思つてゐる。

三宅 周太郎

嵐雛助を推す 吉右衛門門下の大部屋出身である、白井氏の引き立てとはいへ今日の關西の立女形となりしは新時代に即した新人と思ふ。この人には一度ゆつくり會つて話してみたいときへ思つてゐる。私は彼の年少の蝶太郎時代を知るからである。

郷田 惠

一、鶴之助 延二郎、駒之助の三人が關西の歌舞伎での私の絶對ホープ。その順位も書き並べた順番。勿論東京にも書き並べた二人あり。新派、新劇に二三あるが前者は態々後者はおたづね範圍外の故割愛する。能樂と文樂とは今の私の知識では申上げるのがおこがましい。

二、鶴之助、容貌、體態、情操、

水木 京一

一、前通座の嵐芳三郎。一、私の期待はその「太十」の十次郎以來のことです。八百屋お七の吉三とか其他、前髪も上珍重すべき出来を見せる。江戸前といふやうな點を除いて精進次第では歌舞伎の二枚目役者として、故羽左衛門的存在ともなり得ませう。

三宅 襄

能樂界だけ御返事します。二十代の若手で數人期待してゐる。これらはみな藝統正しく且正規の稽古に勵んでゐるし、道に對する心かげも良いように思へるのである。その主なのを挙げる。○實生英雄 28才實生流家元の嗣子として十代にもう豊か天然儀の巨匠野口實資にも就き攻々として稽古をしてゐる。

櫻間龍馬

23才父君金太郎譲りの暢達な自分をも將來を期待させるが、たゞ此中聊か切磋琢磨の點がゆるんでゐるはせぬかと憂へてゐる。

○喜多長世 24才 ○觀世清壽 24才共に手本に祖父(六平太、鏡之丞)をもち、稽古台によき父(實織雄)をもち、進境著るしきもがある。

高谷 伸

一、坂東鶴之助 二、ふつくらした容貌、そのまゝにこせせしない素直な藝風それに俳優としての教養を基礎にした理解もある。この調子で行けば歌舞伎にもその他の藝能面にも書きたい人がありますがあまり長くなるので他日のこととしませう。